

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

学科名 : 看護学科

分野	科目名	単位	時間
専門基礎分野	保健医療論	1	15
専門分野Ⅰ	看護学概論	1	30
	臨床看護技術Ⅱ	1	30
専門分野Ⅱ	成人看護学概論	1	15
	老年援助論Ⅱ	1	30
	小児援助論Ⅱ	1	30
	母性援助論Ⅰ	1	30
	精神看護学概論	1	30
統合分野	在宅援助論Ⅰ	1	30

	合計
総単位数(単位)	9
時間数(時間)	240

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	保健医療論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次		学期及び曜時限	前期	教室名	各教室
担 当 教 員	早川 直美	実務経験と その関連資格	総合病院、開業医で助産師として勤務、受胎調節実地指導員			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>保健医療の現象について、経済現象・医療現象・そして、看護の視点から理解する。看護の対象となる個人、家族の生活している地域社会の現状が人々の生活と健康にどのような影響を及ぼしているか理解を深める。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>出席及び課題提出状況(30%)、筆記試験(70%)で評価する。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 医療概論 健康支援と社会保障制度① 系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院(参考図書)</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>保健医療論自己学習ワークシートにそって予習・復習を行う。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>事前に自己学習ワークシートによる予習をしておく。レポート提出あり。自己学習ワークシートとレポート課題はファイリングしておく。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	「生きることと死ぬこと」について項目ごとにまとめることができる。 生命を尊ぶ心、死を悼む心、健やかに生きることについて考えることができる。	教科書 自己学習ワークシート	自己学習ワークシートを活用し項目ごとに内容をまとめる。 レポート課題	
		各コマにおける授業予定	生命を尊ぶ心、健やかに生きる、老いてこそ人生			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	「生きることと死ぬこと」について項目ごとにまとめることができる。 おだやかに死ぬことについて考えることができる。	教科書 自己学習ワークシート	自己学習ワークシートを活用し項目ごとに内容をまとめる。 レポート課題	
		各コマにおける授業予定	おだやかに死ぬことー終末期を考える			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	医学の歴史、科学としての医学、エビデンスに基づく医療について述べるができる。	教科書 自己学習ワークシート	自己学習ワークシートを活用し項目ごとに内容をまとめる。 レポート課題	
		各コマにおける授業予定	温故知新ー医学の歴史に学ぶ、臨床疫学とEBM			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障制度、保健・医療・介護システムなどの幅広い分野について基本的な内容を述べるができる。	教科書 自己学習ワークシート	自己学習ワークシートを活用し項目ごとに内容をまとめる。 レポート課題	
		各コマにおける授業予定	保健・医療・介護を取り巻く社会環境の変化、社会保障制度、公衆衛生と保健			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障制度、保健・医療・介護システムなどの幅広い分野について基本的な内容を述べるができる。	教科書 自己学習ワークシート	自己学習ワークシートを活用し項目ごとに内容をまとめる。 レポート課題	
		各コマにおける授業予定	公衆衛生と保健、わが国の医療システム、救急医療・集中治療			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障制度、保健・医療・介護システムなどの幅広い分野について基本的な内容を述べることができる。	教科書 自己学習ワークシート	自己学習ワークシートを活用し項目ごとに内容をまとめる。 レポート課題
		各コマにおける授業予定	がん治療、周産期医療、放射線診断、チーム医療、リハビリテーション、介護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	医の倫理、医療安全、医薬品、最先端技術、医療情報といった、現代の医療にかかわる諸問題についてまとめることができる。	教科書 自己学習ワークシート	自己学習ワークシートを活用し項目ごとに内容をまとめる。 レポート課題
		各コマにおける授業予定	医の倫理、医療安全、医薬品、最先端医療、医療情報		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	経済学や政策を通じて医療をよくするという考え方の基本をまとめることができる。	教科書 自己学習ワークシート	自己学習ワークシートを活用し項目ごとに内容をまとめる。 レポート課題
		各コマにおける授業予定	経済学を用いて医療を読み解く、転換を迫られる医療政策		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年次		学期及び曜時間	前期	教室名	各教室
担当教員	岡田香代子	実務経験と その関連資格	総合病院の消化器外科病棟・外来、医院(有床)で看護師として勤務			
《授業科目における学習内容》						
看護の基本となる概念を体系的に理解し、保健・医療・福祉の広い視野で看護の機能、役割を理解する。また、人間理解を基盤とし、専門職業人としての倫理的態度を養う内容とする。						
《成績評価の方法と基準》						
出席(10%)、課題への取り組みと課題提出(30%)、筆記試験(60%)から総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
テキスト 「系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論」医学書院 サブテキスト 「看護覚え書」現代社						
《授業外における学習方法》						
事前にテキスト等を読み、分かることと分からないことを明確にして授業に望むこと。 各授業において予習・復習・課題などの取り組みに45分以上の授業外学習を行うこと。						
《履修に当たっての留意点》						
一つ一つの言葉の意味を考え、自分の言葉で表現できることを目指します。授業を通して看護への関心を高め各領域看護へ発展させて欲しいと思います。課題レポートが提示された場合は、調べ学習を行い、指定された期限を守り提出してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護の対象である人間とは何か。人間、命について考えることができる。	テキスト	内容を予習・復習し、講義終了時に示す課題を実施する	
		各コマにおける授業予定	人間について考える 成長発達段階の理論			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活者としての人間をとらえることができ地域看護の特性について説明できる。 健康とは何か説明できる。	テキスト	内容を予習・復習し、講義終了時に示す課題を実施する	
		各コマにおける授業予定	生活者としての人間 地域看護 健康の定義 ヘルスプロモーション			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護教育の教育体制や看護制度について説明できる。	テキスト 看護覚え書	内容を予習・復習し、講義終了時に示す課題を実施する 夏季休暇の課題あり	
		各コマにおける授業予定	職業としての看護 看護教育の新制度と教育体制 看護制度			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	継続教育、倫理とは何か説明できる。	テキスト 看護の基本となるもの	内容を予習・復習し、講義終了時に示す課題を実施する	
		各コマにおける授業予定	看護者の就業状況と継続教育 倫理とは①			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護における倫理、インフォームドコンセントについて説明できる。	テキスト	内容を予習・復習し、講義終了時に示す課題を実施する	
		各コマにおける授業予定	看護倫理 インフォームドコンセント グループワークオリエンテーション			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	倫理について事例をもとに自分の考えを述べることができる。	テキスト	内容を予習・復習し、講義終了時に示す課題を実施する
		各コマにおける授業予定	グループワーク・発表		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護の役割と機能について説明できる。	テキスト	内容を予習・復習し、講義終了時に示す課題を実施する
		各コマにおける授業予定	看護の役割と機能		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護の継続性と連携について説明できる。	テキスト	内容を予習・復習し、講義終了時に示す課題を実施する
		各コマにおける授業予定	看護における情報伝達と共有 多職種チーム連携		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護の提供のしくみについて説明できる。 医療安全について説明できる。	テキスト	内容を予習・復習し、講義終了時に示す課題を実施する
		各コマにおける授業予定	看護サービス 医療事故		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護理論について説明することができる。 看護の理論家についてまとめることができる。	テキスト	内容を予習・復習し、講義終了時に示す課題を実施する
		各コマにおける授業予定	看護理論とは 看護の理論家(年代と背景)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	ナイチンゲールの功績とナイチンゲールの看護の定義を説明できる。	テキスト	内容を予習・復習し、講義終了時に示す課題を実施する
		各コマにおける授業予定	ナイチンゲールDVD視聴・視聴後レポートまとめ		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	「看護覚え書」をとおして、健康の法則、看護の法則、看護であること、看護でないことの理解を深める。 なりたいた看護師像を明確にすることができる。	テキスト	内容を予習・復習し、講義終了時に示す課題を実施する
		各コマにおける授業予定	グループワーク①		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	「看護覚え書」をとおして、健康の法則、看護の法則、看護であること、看護でないことの理解を深める。 なりたいた看護師像を明確にすることができる。	テキスト	内容を予習・復習し、講義終了時に示す課題を実施する
		各コマにおける授業予定	グループワーク②		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	「看護覚え書」をとおして、健康の法則、看護の法則、看護であること、看護でないことの理解を深め、なりたいた看護師像を明確にし自分の考えを発表することができる。	テキスト	内容を予習・復習し、講義終了時に示す課題を実施する
		各コマにおける授業予定	グループワーク発表①		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	「看護覚え書」をとおして、健康の法則、看護の法則、看護であること、看護でないことの理解を深め、なりたいた看護師像を明確にし自分の考えを発表することができる。自分自身の看護観を導き出すことができる。	テキスト	内容を予習・復習し、講義終了時に示す課題を実施する
		各コマにおける授業予定	グループワーク発表② 看護観について		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	臨床看護技術Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名	各教室
担 当 教 員	鎌田麻美	実務経験と その関連資格	総合病院で外科・内科病棟に看護師として勤務			
<b>《授業科目における学習内容》</b> 主要症状に対して、人間の解剖生理学的メカニズムを理解し、対象の症状を改善するために必要な援助の方法を習得する。 また、医療機器使用時の援助方法を学ぶ。						
<b>《成績評価の方法と基準》</b> 筆記試験(70%)、講義・演習への出席状況、課題提出状況(30%)で評価する。						
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護学総論 基礎看護学4 医学書院 系統看護学講座 専門分野3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる2 臨床看護技術 メディックメディア フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア						
<b>《授業外における学習方法》</b> 1. 各授業において、予習・復習は45分以上の授業外学習を行ってください。 2. 既習の科目の解剖学、生理学、病態治療論で学習した知識・技術を活用し、学習した内容をふまえて予習を行い、事前学習をしてから演習に臨んでください。演習後は、内容について振り返りを復習をしてください。						
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 事前の課題学習は、授業内容を理解する上で必要となります。提示された事前の課題学習は、期限を守り提出してください。 演習では、個人で学習準備をした上で、教科書や授業ノート・参考資料等を持参し、積極的に演習に参加してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸障害のある患者のアセスメントの視点が説明できる。	教科書 看護がみえる2	授業内容に関する教科書を事前に読んでわからない言葉を調べておくこと。	
		各コマにおける授業予定	呼吸障害のある患者の看護、アセスメント、DVD視聴			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸障害のある患者への援助の方法とその根拠が説明できる。	教科書 看護がみえる2	指定した教科書を事前に読み(吸入・吸引)わからない言葉を調べておく事。	
		各コマにおける授業予定	呼吸障害のある患者の看護、DVD(体位ドレナージ、スクイーピング、吸入、吸引)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸障害のある患者への援助が説明できる。	教科書 看護がみえる2	酸素療法をうける患者の看護をまとめておく。	
		各コマにおける授業予定	呼吸障害のある患者への援助			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環障害を持つ患者の看護、循環の生理的メカニズムを理解し、アセスメントの視点が説明できる。	教科書	授業内容に関する教科書を事前に読んでわからない言葉を調べておくこと。	
		各コマにおける授業予定	循環障害を持つ患者の看護、循環の生理的メカニズム、アセスメント			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環障害を持つ患者への援助の方法とその根拠が説明できる。	教科書	指定した教科書を事前に読んでおくこと。心電図の看護技術ノートを作成する。	
		各コマにおける授業予定	循環障害を楽にする方法の選択			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環障害を持つ患者の看護が説明できる。	教科書	指定した教科書を事前に読んでおくこと。心電図の看護技術ノートを作成する。
		各コマにおける授業予定	循環障害を持つ患者の看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養・代謝障害の症状とメカニズムを理解し、ニーズ充足に向けた看護援助が説明できる。	教科書	授業内容に関する教科書を事前に読んでわからない言葉を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	栄養や代謝に関連する症状を示す、メカニズム、アセスメント		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄機能障害の症状を示す患者の看護とその症状のメカニズムが説明できる。	教科書	授業内容に関する教科書を事前に読んでわからない言葉を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	排泄機能障害の症状を示す対象者への看護、排泄機能障害に関連する症状のメカニズム		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化・排泄障害のある患者の看護が説明できる。	教科書	授業内容に関する教科書を事前に読んでわからない言葉を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	排泄機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	意識障害のある患者の看護が説明できる。	教科書 フィジカルアセスメントがみえる	授業内容に関する教科書を事前に読んでわからない言葉を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	意識障害のある患者の看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護を説明できる。	教科書 フィジカルアセスメントがみえる	意識レベル、認知機能のスクリーニングツールを復習しておく。
		各コマにおける授業予定	認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛みのある患者への安楽に向けた援助が説明できる。	教科書 フィジカルアセスメントがみえる	痛みのアセスメントを復習しておく。
		各コマにおける授業予定	安楽に関連する症状を示す対象者への看護(痛みと嘔吐)		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ME機器の使用にあたっての基本原則が説明できる。	教科書 看護がみえる②	吸入・吸引のワークシートの作成をする。
		各コマにおける授業予定	医療機器使用時の看護、演習準備事前学習「吸引」		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	吸引、酸素吸入、心電図を患者に実施できる。	吸引器、心電図計、酸素ボンベ、酸素流量計などの医療機器	予習;解剖学、生理学で学習した内容を復習し、内容に該当する部分のノートやプリントをよく読んで、演習に臨む。
		各コマにおける授業予定	吸引、酸素吸入、心電図		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	吸引、酸素吸入、心電図を患者に実施できる。	吸引器、心電図計、酸素ボンベ、酸素流量計などの医療機器	予習;解剖学、生理学、で学習した内容を復習し、内容に該当する部分のノートやプリントをよく読んで、演習に臨む。
		各コマにおける授業予定	吸引、酸素吸入、心電図、まとめ		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次		学期及び曜時限	後期	教室名	各教室
担 当 教 員	岡田香代子	実務経験と その関連資格	総合病院の消化器外科病棟・外来、医院(有床)で看護師として勤務			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>成人期にある人の特徴についてライフサイクルの視点から理解するとともに、成人の多様な健康状態や健康問題について理解する。また、成人看護に有用な基本的概念や理論を理解し、成人への看護アプローチの基本的考え方を学ぶ。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>筆記試験、出席状況と授業への参加状況・レポート課題で評価する</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護学講座 国民衛生の動向 厚生労働統計協会</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>授業終了後、教科書を読んで、用語の定義と意味の理解を復習しておきましょう。国民衛生の動向を活用しますので、統計の図表、解説も読んで授業に臨んでください。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>教科書の用語や事例を自分自身の身近な大人、成人を思い浮かべながら、学習していくと内容の理解が促進します。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策について説明できる	教科書 国民衛生の動向	教科書を事前に読んで予習しておく。	
		各コマにおける授業予定	1)保健統計からみた成人の健康の動向 2)成人を対象とした保健・医療・福祉政策			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	成人各期(青年期・壮年期・中年期・向老期)の身体的・心理的・社会的特徴が説明できる。	教科書	成人各期の特徴を身近な成人期の人を想起しておく。	
		各コマにおける授業予定	成人各期に特徴的な健康問題。グループワーク			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	成人各期(青年期・壮年期・中年期・向老期)の身体的・心理的・社会的特徴特徴を、資料にまとめたことを説明できる。	教科書	課題レポート 成人各期の特徴を身近な成人にインタビューして、グループワークに臨む。	
		各コマにおける授業予定	成人各期の特徴。グループ発表			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人の生活と健康の特徴について説明できる。	教科書 国民衛生の動向	環境が健康にどんな影響を及ぼすか課題レポート	
		各コマにおける授業予定	成人の生活と健康の理解 1)成人を取り巻く環境・健康の状況			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人の生活習慣と健康問題の関連を理解し、生活習慣病予防の対策が説明できる。	教科書 国民衛生の動向	授業で学んだ内容を復習し、予定の範囲の教科書を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	1)生活習慣病とその予防・対策 2)就業・労働形態の変化から生ずる健康問題 3)嗜好がもたらす健康問題 4)身体活動量低下と運動不足 5)肥満 6)職業性疾患とその予防			
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人学習者へ看護援助を実施するために必要な理論について理解できる。	教科書 資料	授業で学んだ内容を復習し、予定の範囲の教科書を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	1)成人学習者(アンドラゴジー) 2)ケアリング 3)危機理論・ストレストレーニング 4)セルフケア理論			
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人の看護に必要な基本的アプローチを説明することができる。	教科書 資料	授業で学んだ内容を復習し、予定の範囲の教科書を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	成人への看護アプローチの基本 1)健康行動への行動変容：自己効力、アンドラゴジー 2)自己決定 3)適応 4)障害受容 5)エンパワメント			
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人の健康増進への支援、ヘルスプロモーションの考え方を理解し、ヘルスプロモーションを促進する看護を説明できる。	教科書	授業で学んだ内容を復習し、予定の範囲の教科書を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	ヘルスプロモーションと看護			





2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	老年援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2学次		学期及び曜時限	前期	教室名	各教室
担当教員	早川 直美	実務経験と その関連資格	看護師として病院・高齢者福祉施設・児童福祉施設に勤務 <input type="checkbox"/>			
《授業科目における学習内容》						
1.高齢者に特有な症候・疾患・認知機能障害と看護 2.検査・治療を必要とする高齢者の看護 3.多様な生活の場における看護 4.終末期における看護 5.高齢者を介護する家族への看護						
《成績評価の方法と基準》						
講義への出席状況、課題提出状況・内容(30%)、筆記試験(70%)で総合的に判断する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院						
《授業外における学習方法》						
事前に教科書を読み、わからなかった言葉は調べておきましょう。提示された課題に取り組む際には書き写すのではなく要約すること・自分の考えをまとめることを意識してください。						
《履修に当たっての留意点》						
授業で学習した内容の理解の促進と知識の定着のために主体的に学習に取り組みましょう。そのために事前に該当する項目について予習しておきましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の疾患の特徴、症状を理解し、症状のなりたちと特徴、アセスメント、看護の要点を説明できる。	老年看護学 老年看護 病態・疾患論	高齢者の疾患の特徴についてテキストを読んでおく	
		各コマにおける授業予定	高齢者の疾患の特徴、特有な症状 高齢者に特有な症候のアセスメントと看護 ①発熱 ②痛み ③掻痒 ④脱水			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の疾患の特徴、症状を理解し、症状のなりたちと特徴、アセスメント、看護の要点を説明できる。	老年看護学 老年看護 病態・疾患論	高齢者の疾患の特徴についてテキストを読んでおく	
		各コマにおける授業予定	高齢者の疾患の特徴、特有な症状 高齢者に特有な症候のアセスメントと看護 ⑤嘔吐 ⑥浮腫 ⑦倦怠感 ⑧褥瘡			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	各疾患の病態と症状・診断・治療・アセスメント、看護の要点が説明できる。	老年看護学 老年看護 病態・疾患論	高齢者の疾患の特徴についてテキストを読んでおく	
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ①脳卒中			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	各疾患の病態と症状・診断・治療・アセスメント、看護の要点が説明できる。	老年看護学 老年看護 病態・疾患論	高齢者の疾患の特徴についてテキストを読んでおく	
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ②心不全			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	各疾患の病態と症状・診断・治療・アセスメント、看護の要点が説明できる。	老年看護学 老年看護 病態・疾患論	高齢者の疾患の特徴についてテキストを読んでおく	
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ③糖尿病 ④がん			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	各疾患の病態と症状・診断・治療・アセスメント、看護の要点が説明できる。	老年看護学 老年看護 病態・疾患論	高齢者の疾患の特徴についてテキストを読んでおく
	各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ⑤慢性閉塞性肺疾患			
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	各疾患の病態と症状・診断・治療・アセスメント、看護の要点が説明できる。	老年看護学 老年看護 病態・疾患論	高齢者の疾患の特徴についてテキストを読んでおく
	各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ⑥パーキンソン病・パーキンソン症候群			
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	各疾患の病態と症状・診断・治療・アセスメント、看護の要点が説明できる。	老年看護学 老年看護 病態・疾患論	高齢者の疾患の特徴についてテキストを読んでおく
	各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ⑦インフルエンザ ⑧肺炎 ⑨骨粗鬆症 ⑩骨折			
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	認知機能障害のある高齢者の看護について説明できる。	老年看護学 老年看護 病態・疾患論	認知機能障害の基礎知識の復習をしておく
	各コマにおける授業予定	認知機能障害のある高齢者の看護 ①うつ ②せん妄			
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	認知症の病態・症状・診断・治療、認知機能の評価方法、コミュニケーション方法、看護を説明できる。	老年看護学 老年看護 病態・疾患論	認知症の分類・症状についてテキストを読んでおく
	各コマにおける授業予定	認知機能障害のある高齢者の看護 ③認知症の病態・症状・診断・治療、認知機能の評価、看護			
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者が受けることの多い検査と高齢者の特徴をふまえた看護を説明できる。	老年看護学 老年看護 病態・疾患論	血液検査の基準値を復習
	各コマにおける授業予定	検査を受ける高齢者の看護 ①高齢者が受けることの多い検査 ②検査を受ける高齢者への看護			
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	加齢による薬物動態の変化、有害事象、薬物療法の援助について説明できる。	老年看護学 老年看護 病態・疾患論	薬物動態について復習
	各コマにおける授業予定	薬物療法を受ける高齢者の看護 ①加齢に伴う薬物動態の変化 ②高齢者に特徴的な薬物有害事象 ③薬物療法における援助			
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手術を受ける高齢者の特徴、加齢と手術侵襲、高齢者に生じやすい術後合併症とその予防について説明できる。	老年看護学 老年看護 病態・疾患論	術後合併症について復習
	各コマにおける授業予定	手術を受ける高齢者の看護 ①手術を受ける高齢者の特徴 ②術前・術後の看護マネジメント(術後合併症予防) ③特徴的な手術			
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者のリハビリテーションの特徴を学び、その看護や入院時から退院後の継続的なケアのあり方と多様な生活の場の看護について説明できる。	老年看護学 老年看護 病態・疾患論	経過別リハビリテーションの分類についてテキストを読んでおく
	各コマにおける授業予定	リハビリテーションを受ける高齢者の看護 ①リハビリテーションを必要とする高齢者 ②経過別リハビリテーション			
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の入院時の特徴、退院調整・退院支援の看護について説明できる。	老年看護学 老年看護 病態・疾患論	入院(環境の変化)に伴い生じる行動・症状テキストを読んでおく
	各コマにおける授業予定	入院治療を受ける高齢者の看護 ①治療を担う医療施設の状況 ②入院に伴う環境の変化と高齢者への影響 ③入院初期の援助 ④家族への配慮⑤チーム医療⑥退院調整・退院支援			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	小児援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	各教室
担 当 教 員	藤原 由香 他	実務経験と その関連資格	総合病院で病棟看護師として勤務			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>さまざまな状況にある子どもとその家族について理解する。また、子どもの成長・発達や健康の状態に応じた日常生活援助や診療に伴う援助を実施するために、科学的根拠に裏づけされた小児の看護技術を学ぶ。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>授業態度・出席状況(10%)、提出物(10%)、筆記試験(80%)で評価する。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院                      系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院                      根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>授業で学習した内容を主体的に復習する。また、母子実習室や看護実習室で赤ちゃんや5歳児のモデル人形を使用して、看護技術を繰り返し、練習する。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>基礎看護学での基礎看護技術が基本となる。子どもの年齢、成長・発達に応じた、また子どもへの思いやり、誠実さをもった看護技術を習得しましょう。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達段階に応じたコミュニケーションと遊びを述べることができる	教科書 AV機器他	概論で学んだ遊びやコミュニケーションについて予習する	
	講義形式	各コマにおける授業予定	コミュニケーション、遊びの援助、子どもの健康管理			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの成長・発達をふまえた日常生活援助について述べるができる	教科書 AV機器他	概論で学んだ遊びや乳児期や幼児期の特徴について予習する	
	講義形式	各コマにおける授業予定	日常生活援助ートレットトレーニング、清潔、更衣、食事、環境			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの各系統のアセスメントのポイントを述べるができる	教科書 AV機器他	身体計測の方法、子どもの成長・発達、この授業に関連する形態機能の特徴について予習する	
	講義形式	各コマにおける授業予定	身体的アセスメントー身体計測、一般状態、眼、耳、顔面、口腔			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの各系統のアセスメントのポイントを述べることができる	教科書 AV機器他	子どもの成長・発達、この授業に関連する形態機能の特徴について予習する	
	講義形式	各コマにおける授業予定	身体的アセスメントー呼吸、循環、腹部			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの各系統のアセスメントのポイントを述べることができる	教科書 AV機器他	子どもの成長・発達、この授業に関連する形態機能の特徴について予習する	
	講義形式	各コマにおける授業予定	身体的アセスメントー筋骨格系 神経系、生殖器系			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの各系統のアセスメントのポイントを述べるができる	教科書 AV機器他	子どもの成長・発達、この授業に関連する形態機能の特徴について予習する
		各コマにおける授業予定	身体的アセスメントーリンパ系、外皮系 入院中の子どもと家族の特徴		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	入院や外来という人的・物的環境が子どもや家族に与える影響を考える	教科書 AV機器他	前回の授業で学んだ入院中の子どもと家族についてを復習しておく
		各コマにおける授業予定	入院中の子どもと家族の看護 外来における子どもと家族の看護		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	プレパレーションの背景やプロセスを述べるができる	教科書 AV機器他	前回の授業で学んだ入院や外来における子どもと家族の看護を復習しておく
		各コマにおける授業予定	プレパレーションの理論と実際		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例を使った演習でプレパレーションの実際をイメージできる	教科書 AV機器他	授業で学んだ内容を復習する
		各コマにおける授業予定	プレパレーションの実際		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	障がいのある子ども、在宅療養中の子どもの看護を述べるができる	教科書 AV機器他	これまでに学んだ「障がい」とは、その種類について復習しておく
		各コマにおける授業予定	障がいのある子どもと家族の看護 在宅療養中の子どもの特徴と看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	災害時の子どもの反応、虐待を受けた子どもにみられる反応を述べるができる	教科書 AV機器他	概論で学んだ虐待に関する内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	災害時の子どもの反応と家族の看護 虐待を受ける子どもと家族の看護		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	検査・処置を受ける子どもの看護のポイントを述べるができる	教科書 AV機器他	薬物動態やこれまでの授業で学んだ内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	検査・処置を受ける子どもの看護(総論) 薬物療法を受ける子どもの看護①		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの成長・発達や薬物動態をふまえた薬物療法の看護を述べるができる	教科書 AV機器他	薬物動態や水分バランスなど授業で学んだ内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	薬物療法を受ける子どもの看護② 子どもの輸液管理、採血、子どもの拘束、隔離、活動制限と看護		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの経管栄養、排泄、安楽な呼吸の援助を述べるができる モデル人形を用いて発達段階に応じた胸骨圧迫ができる	教科書 AV機器他	基礎看護技術の授業で学んだ内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	経管栄養、排泄の援助(浣腸) 安楽な呼吸への援助(酸素・吸入・吸引) 気道の異物除去、子どもの救命救急ー胸骨圧迫の演習		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	検査時に子どもの感じる心理的苦痛・身体的苦痛をイメージできる モデル人形を用いて男児・女児の採尿バッグの貼り方ができる	教科書 AV機器他	教科書の演習予定の範囲を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	検査時の看護ー検尿(演習)、骨髄穿刺、腰椎穿刺(固定の演習)		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	母性援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名	各教室
担 当 教 員	勝部愛子他	実務経験と その関連資格	総合病院の産婦人科に助産師として勤務、受胎調節実地指導員 不妊症看護認定看護師			
《授業科目における学習内容》						
妊娠、分娩期の正常な経過を学び、母子に対する看護を理解する						
《成績評価の方法と基準》						
授業態度、演習態度、レポート課題(30%)、GW・ロールプレイの参加状況および発表態度(10%)筆記試験(60%)で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 母性看護学 マタニティサイクル 南江堂 看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術 メヂカルフレンド社 母性看護技術アドバンス 平澤美恵子, 村上睦子 株式会社インターメディアカ						
《授業外における学習方法》						
事前学習とレポート課題						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	妊娠の生理と産科診察について理解し説明できる。	産科診察器具 DVD		妊娠について学習しておく
		各コマにおける授業予定	妊娠とは、妊娠の診断、産科診察			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	胎児の発育について理解し説明できる。	妊娠各期の子宮模型、胎児模型 胎児および付属物資料		事前に胎児の発育について読んでおく
		各コマにおける授業予定	胎児の発育			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	妊娠期における母体の生理的変化と正常な経過を理解し、説明できる。	妊娠初期および妊娠中の過ごし方 DVD 妊婦フィジカルアセスメント資料		妊婦健康診査について学習しておく
		各コマにおける授業予定	妊娠期の看護-妊婦健康診査			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	妊娠期における特徴と正常な経過を理解し、妊娠が健全に継続できるための看護を理解し、説明できる。	妊娠中の日常生活アセスメントDVD 系統別アセスメント資料 妊婦・新生児の衣類		事前に妊娠期の看護について読んでおく グループ編成
		各コマにおける授業予定	妊娠期の看護-日常生活に関するアセスメント、妊婦健康診査。			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	妊婦の健康管理と保健相談について理解し説明できる。	PC		グループのまとめ資料を作成する
		各コマにおける授業予定	妊婦と家族の健康管理と保健相談についてグループワーク			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	妊婦の健康管理と保健相談について理解し説明できる。	グループワークのまとめ資料	司会進行など役割分担発表準備
		各コマにおける授業予定	妊婦と家族の健康管理と保健相談		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	分娩期における特徴と正常な経過を理解し、分娩期の看護を理解し説明できる。	出産のときDVD 分娩期看護資料	分娩前教育について学習しておく
		各コマにおける授業予定	分娩前教育		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	分娩期における特徴と清浄な経過を理解し、分娩期の看護を理解し説明できる。	新生児モデル 骨盤模型 胎児の回旋DVD 分娩期看護資料	事前に分娩の要素について読んでおく。
		各コマにおける授業予定	分娩の要素と経過		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	周産期を取り巻く環境と産婦と家族に対する看護について理解し、説明できる。	分娩期看護資料	演習の事前課題配布
		各コマにおける授業予定	産婦の家族の看護		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	母性看護技術の方法と実際を理解し説明できる。	分娩監視装置模型 判読資料 装着方法とモニタ例資料	分娩監視装置について学習しておく
		各コマにおける授業予定	分娩監視装置の装着方法および判読		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	母性看護技術の方法と実際を理解し説明できる。	授業用DVD	グループ編成
		各コマにおける授業予定	分娩期看護のロールプレイ(場面設定)の説明とグループワーク		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護技術の方法と実際を理解し説明できる。	妊婦モデル 骨盤・胎児モデル 分娩監視装置模型	発表のための予行練習を行う。
		各コマにおける授業予定	分娩期看護のロールプレイ(援助方法)のグループワーク		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護技術の方法と実際を理解し説明できる。	妊婦モデル 骨盤・胎児モデル 分娩監視装置模型	教室準備 備品の片付け
		各コマにおける授業予定	相手との相互理解や人間的存在・価値を考え人としての成長を言語化でき。分娩期看護のロールプレイの発表		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	分娩期の特徴と正常な経過を理解し分娩期の看護を理解し、説明できる。	乳房モデル 新生児モデル 胎盤計測用具	事前に乳汁分泌のしくみについて読んでおく。
		各コマにおける授業予定	乳汁分泌のしくみ、母性看護技術(計測、触診法)		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護技術の方法と実際を理解し説明できる。	妊婦モデル レオポルド胎児触診法モデル 胎盤モデル 演習課題記録	グループ編成、教室準備備品の片付け
		各コマにおける授業予定	子宮底および腹囲測定、レオポルド胎児触診法、胎盤計測		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	精神看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名	各教室
担 当 教 員	濱崎 美文	実務経験と その関連資格	総合病院の精神科病棟で看護師として勤務			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>精神医療と看護の歴史の変遷では、精神障害者に対して正しく理解されなかったことでゆがんだイメージを作り、間違った認識でとらえ、社会のなかに根拠のない偏見で苦しむ人々を生み出すこともあった。日本の中でメンタルヘルスの状況の悪化、精神保健に関わる問題を疾患の枠組みからだけでとらえるのではなく、人間の生の営みという視点から誰にでも起こり得る出来事としてとらえ、精神障害者について正しく理解することを学ぶ。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>授業や演習への参加状況と受講後に課すレポートの課題提出状況(20%)、筆記試験(80%)で総合的に評価する。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院                      系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院                      系統看護学講座 学生のための精神看護学 医学書院</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>授業終了時に示す課題を実施しておくこと。授業で学習した内容の理解の促進と知識の定着のために主体的に国家試験の問題に取り組んでおくこと。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>こころの健康はすべての人に大きく深く関わります。興味を持って主体的に学んでください。自分たちは学生であり、学ぶ側であるという意識をもち、授業中の態度等に注意してください。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	日本の精神障害者の現状と精神医療の特徴を説明することができる	教科書 AV機器他	授業で学んだ内容を復習し、日本の精神医療の特徴についての課題にとりくむこと。	
		各コマにおける授業予定	精神医療の特徴			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	精神障害者の生きにくさを自分の言葉で表現できる	教科書 AV機器他	授業で学んだ内容を復習し、精神障害者の体験についての課題にとりくむこと	
		各コマにおける授業予定	精神障害者の体験と精神看護			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	精神の健康について自分の言葉で説明することができる	教科書 AV機器他	授業で学んだ内容を復習し、精神の健康についてレポートをまとめること	
		各コマにおける授業予定	精神の健康 ストレスと健康の危機			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	リカバリー、レジリエンス、ストレングの考え方について説明できる	教科書 AV機器他	授業で学んだ内容を復習し、精神科特有の考え方についての課題にとりくむことと	
		各コマにおける授業予定	回復を支える力「レジリエンス」			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	意識・認知・感情・学習を理解し、それらが障害された時の症状について説明できる	教科書 AV機器他	授業で学んだ内容を復習し、意識・認知・感情・学習についての課題を実施すること	
		各コマにおける授業予定	人間の心の諸活動			



授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	各ライフサイクルに応じた発達課題と危機を説明することができる	教科書 AV機器他	授業で学んだ内容を復習し、ライフサイクルにおける発達課題と危機についてのレポートをまとめること
		各コマにおける授業予定	ライフサイクルにおける危機		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	各ライフサイクルに応じた発達課題と危機を説明することができる	教科書 AV機器他	授業で学んだ内容を復習し、ライフサイクルにおける発達課題と危機についてのレポートをまとめること
		各コマにおける授業予定	ライフサイクルにおける危機		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	各ライフサイクルに応じた発達課題と危機を説明することができる	教科書 AV機器他	授業で学んだ内容を復習し、ライフサイクルにおける発達課題と危機についてのレポートをまとめること
		各コマにおける授業予定	ライフサイクルにおける危機		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	自我の防衛規制について身近な具体例を示し説明できる	教科書 AV機器他	授業で学んだ内容を復習し、自我の防衛規制についての課題にとりくむこと
		各コマにおける授業予定	精神力動理論、対象関係論		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	グループの特徴を学び、グループを看護にどのようにいかすかを説明できる	教科書 AV機器他	授業で学んだ内容を復習し、課題にとりくむこと
		各コマにおける授業予定	集団という関係の中の個人について		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護の対象としての家族を学び、家族システムについて説明できる	教科書 AV機器他	授業で学んだ内容を復習し、課題にとりくむこと
		各コマにおける授業予定	集団という関係の中の個人について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	世界と日本における精神医学・精神医療の流れを説明できる	教科書 AV機器他	授業で学んだ内容を復習し、世界や日本における精神医療の流れについてレポートをまとめること
		各コマにおける授業予定	世界と日本における精神医療の流れ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神科ではどのような治療が行われているか説明することができる	教科書 AV機器他	授業で学んだ内容を復習し、精神科における治療に関する課題を実施すること
		各コマにおける授業予定	精神科での治療		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神障害者に関する法律について説明できる	教科書 AV機器他	授業で学んだ内容を復習し、精神科における法律についての課題を実施すること
		各コマにおける授業予定	精神障害と法制度		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	精神障害者の生きにくさに対して自分たちができることは何かを説明できる	教科書 AV機器他	精神障害者の生きにくさについてまとめ他者にわかるように発表することができる
		各コマにおける授業予定	精神障害者の生きにくさを学ぶ		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	統合分野	授業の方法	講義演習
科目名	在宅援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	各教室
担当教員	及川登美子	実務経験とその関連資格	総合病院で外来・病棟、手術室、健診センター、消化器内視鏡技師、介護老人保健施設に看護師長(介護支援専門員資格あり)として勤務			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>在宅療養者とその家族を対象とした在宅看護を展開するためのアセスメント方法、看護計画、在宅ケアの連携やケアマネジメント、社会資源を活用するための方法について学ぶ。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>出席状況、出席態度、課題提出状況、課題の到達度20%、筆記試験80%で総合的に評価する。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院、適宜資料を配布する。</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>指定した教科書や資料を事前に読んでおくこと、授業終了時に示す課題を実施しておくこと、授業内容に係わる小テストを実施するので、復習しておくこと。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>講義には既習の学習内容を踏まえた内容がたくさんあります。それらの知識を活用しながら学習してください。日頃からメディア・新聞・雑誌などの情報に関心を持ちましょう。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護の提供の場とそれぞれの特徴を説明できる。	教科書 ワークシート AV機器 小テスト	教科書を読んでくる。	
		各コマにおける授業予定	1. 入退院・入退所など、療養の移行時において看護師が行う支援 2. 在宅看護における看護師の基本的活動とその視点			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅療養者への多職種連携について説明できる。	教科書 ワークシート 事例 AV機器 ホワイトボード 小テスト	小テストの復習 課題レポート:「課題を解決するためにどのような機関と連携し協働すればよいか」	
		各コマにおける授業予定	多職種の役割と連携			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域で暮らすサポートの実際について説明できる。(民生委員の活動)	民生委員からの講演 AV機器	課題レポート:「講義を聴いて学んだこと」	
		各コマにおける授業予定	民生委員の活動の実際			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域で暮らすサポートの実際について説明できる。(訪問看護ステーション)	訪問看護ステーション訪問看護師の講演 AV機器	課題レポート:「講義を聴いて学んだこと」	
		各コマにおける授業予定	出雲市の医療の現状と連携について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域で暮らすサポートの実際について説明できる。(認知症サポーター)	認知症キャラバン講習終了者の講演 AV機器	事前課題レポート:①「認知症についての学習」②「講義を聴いて学んだこと」	
		各コマにおける授業予定	認知症サポーター養成講座			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	在宅療養者とその家族を対象とした在宅看護を展開するためのアセスメント方法、看護計画、在宅ケアの連携やケアマネジメント、社会資源を活用するための方法について述べるができる。	教科書 ワークシート AV機器 小テスト	小テストの復習
		各コマにおける授業予定	多様な在宅療養者のニーズのアセスメント、在宅看護過程の特徴、在宅療養者の安全の確保、人権の保障、他職種連携、社会資源の活用		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	情報の整理とアセスメントの展開ができる。	教科書 ワークシート AV機器 ホワイトボード 小テスト	課題レポート:①「病院看護と訪問看護の違い」②「在宅看護過程展開のポイント」③「生活モデルと医療モデルの違い」
		各コマにおける授業予定	在宅療養移行時期にある事例を4側面から捉えてGWLし、発表する。		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	COPDの事例をもとに看護過程の展開をすることができる。	教科書 ワークシート AV機器 ホワイトボード 記録用紙 小テスト	小テストの復習、COPDの自己学習、課題の自己学習
		各コマにおける授業予定	情報分析用紙、ワークシートで課題を明確にしグループで発表する。COPDの病態の学習をして必要な看護援助を考える。		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	COPDの事例をもとに看護過程の展開をすることができる。	教科書 ワークシート AV機器 ホワイトボード 記録用紙 小テスト	課題レポート提出:「情報分析用紙、課題の明確化、関連図、長期目標・短期目標の記載」
		各コマにおける授業予定	関連図の作成、長期目標・短期目標を記載する。		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例をもとに看護過程の展開をすることができる。	教科書 ワークシート 書画カメラ 記録用紙 小テスト	小テストの復習、課題レポート(記録用紙)を見直して再提出
		各コマにおける授業予定	COPDの事例の看護過程の展開の発表		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	在宅看護における安全性の確保について説明できる。	教科書 ワークシート AV機器 小テスト	小テストの復習
		各コマにおける授業予定	在宅におけるリスクの特徴、薬物や転倒事故防止		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	在宅看護における安全性の確保について説明できる。	教科書 ワークシート AV機器 小テスト	小テストの復習
		各コマにおける授業予定	窒息、火災、医療事故の防止、感染防止のための標準予防策、医療廃棄物の処理について		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	在宅療養者に必要な災害対策、在宅看護の役割および他機関・他職種との連携のあり方について述べるができる。	教科書 ワークシート AV機器 小テスト	小テストの復習
		各コマにおける授業予定	災害サイクルに応じた対策の実際と在宅看護の役割		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	在宅看護に関係する個人情報、成年後見、高齢者虐待などに関する法について説明することができる。	教科書、ワークシート、事例 AV機器、ホワイトボード	課題レポート:「Cさん親子について、虐待のアセスメント」「Cさんのケアプラン立案」
		各コマにおける授業予定	個人の尊厳、自己決定権、個人情報の保護、個人情報等の情報の開示		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 保障されるべき在宅看護の対象者の権利を述べるができる。 2. 高齢者虐待を発見した際の対応について説明できる。	ワークシート 事例 PW GW 小テスト	まとめの復習
		各コマにおける授業予定	成年後見、虐待(高齢者虐待への対応)、在宅看護における法律問題まとめ		